

令和 6 年度
廿日市市議会議員海外行政視察
(アメリカ合衆国ハワイ州ハワイ郡)

報 告 書

令和 6 年 (2024年) 9 月 28 日～10 月 2 日



ウエスト・ハワイ・シビックセンター
(ハワイ郡議会庁舎 (コナ側))

令和 6 年 12 月
廿日市市議会

目 次

1	視察訪問実施にあたって	1
(1)	視察の目的	1
(2)	期 間	1
(3)	視察事項（各委員会）	1
(4)	訪問国及び訪問市	2
(5)	視察派遣者名簿	1 0
(6)	事前準備の状況（研修会及び説明会）	1 1
(7)	視察行程表	1 3
2	視察総括	1 7
	団長 新田 茂美	1 7
3	視察団報告	3 3
(1)	副団長 井上佐智子	3 3
(2)	団 員 梅田 洋一	4 2
4	視察結果報告	5 0

1 視察訪問実施にあたって

(1) 視察の目的

姉妹都市との友好親善並びに相互理解を深めるとともに、文化、経済、都市事情その他必要な事項を視察調査し、国際性の慣用と資質向上に努め、その成果を市政発展に寄与する。

(2) 期 間

令和6年（2024年）9月28日（土）～10月2日（水） 5日間

(3) 視察事項（各委員会）

視察の目的を達成するため、今後、主たる交流分野となり得る文教厚生常任委員会及び環境産業常任委員会から派遣団員を各1人選任した。

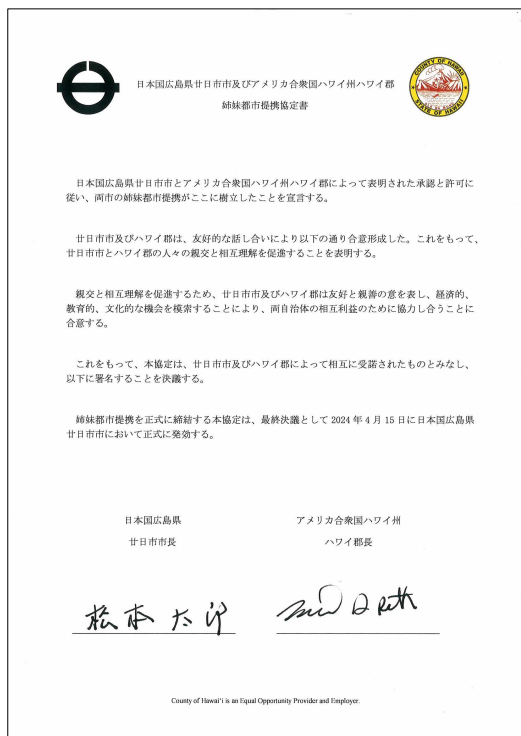
常任委員会名	調査項目
文教厚生常任委員会	歴史、文化及び教育について
環境産業常任委員会	産業、観光及び環境について

(4) 訪問国及び訪問市

【令和6年度視察実施に至った経緯】

令和6年4月15日、はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ小ホールにおいて、本市とアメリカ合衆国ハワイ州ハワイ郡が姉妹都市提携を締結した。

その際、ハワイ郡からは行政の長である郡長だけでなく、郡議会議長及び商業関係者等で編成された視察団が本市を訪問しており、このことへの答礼と、令和7年度からの交流事業開始に向けて、現地での調査・協議等を行う必要があるため、市長等、市執行部とともにハワイ郡を訪問することとした。



姉妹都市提携協定書



廿日市市・ハワイ郡
姉妹都市提携調印式の様子

【視察先基本情報】

◎アメリカ合衆国ハワイ州の概要

面積：16,634 km²（東京都の約 7.6 倍）全米第 47 位

人口：1,435,138 人（全米 40 位）（2023 年国勢調査局）

人種別割合：白人 43.9%、フィリピン系 25.5%、ハワイ先住民系 22.8%、
日系 20.8%、中国系 16.5%、黒人・アフリカ系 4.0%、
韓国系 3.2% *注：複数の人種に属している回答を含む。

（2023 年ハワイ州データブック掲載データより算出）

州都：Honolulu(ホノルル) 愛称：The Aloha State(ディアロハ ステイト)

主要産業：観光業、不動産業、建設業

GDP：1080.2 億ドル（2023 年、対前年比+7.0%）

1 人当たり個人所得：75,270 ドル（2023 年）

輸出品目：民間航空機（エンジン、部品等）、農産品（パパイヤ、
コーヒー、マカダミアナッツ等）、水産物（エビ等）

輸出相手国(2023 年)：日本(22.4%)、豪州(12.5%)、フィリピン
(12.4%)、香港(9.7%)

在留邦人数：26,212 人(2023 年 10 月時点)

日系人：約 31 万人、州人口の 20.8%(2023 年時点)

1868 年(明治元年)に最初の日本人移民が到着

対日輸出額：12,774 万ドル(2023 年、第 1 位)

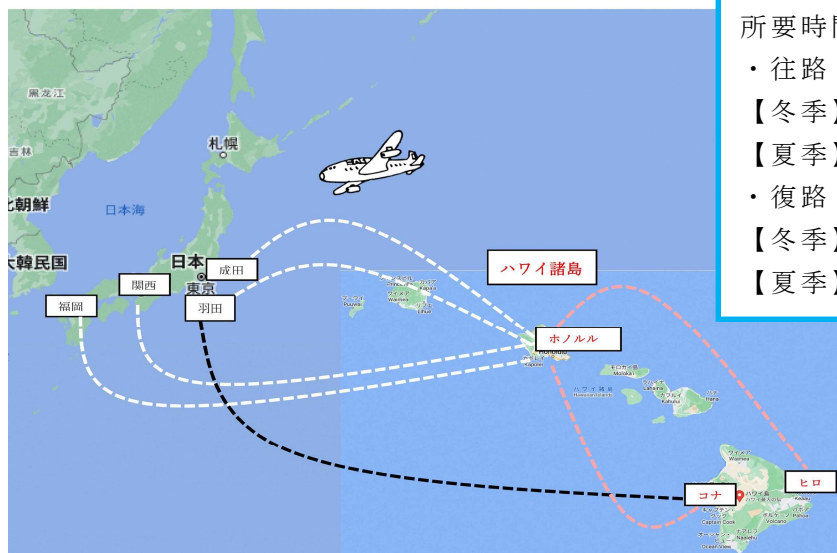
対日主要輸出品目：飲料水、加工食品、農産品

日系企業の進出状況：約 200 事業所(2022 年)

（出典：『ハワイ州概要』「在ホノルル日本国総領事館」

(https://www.honolulu.us.emb-japan.go.jp/files/11_000001_00916.html) を加工して作成）

Google ハワイ島



所要時間（東京⇄コナ 直行便）

・往路

【冬季】約 7 時間 10 分

【夏季】約 7 時間 50 分

・復路

【冬季】約 10 時間

【夏季】約 8 時間 45 分

◎ハワイ郡の概要

ハワイ郡の紹介

ハワイ郡はアメリカ合衆国のハワイ州にあり、その行政区域はハワイ島全体である。ハワイ島はハワイ諸島最大の島で、最も南に位置しており、通称「ビッグ・アイランド」と呼ばれている。また、噴火活動のあるキラウエア火山に代表されるとおり「火山の島」としても知られている。

1800年代の半ば、さとうきびの栽培がハワイの産業の要となり、就労のため多くの日本人がハワイへ渡った。ハワイ郡最大の町ヒロは、日本人の移民が作ったとも言われている。ヒロは過去に数度大きな津波の被害に遭い、今でもその爪痕や復興の歴史を見ることができる。世界最大のフラの祭典「メリー・モナーク・フェスティバル」の開催地でもある。

主な産業等

主要産業は農業と観光産業である。

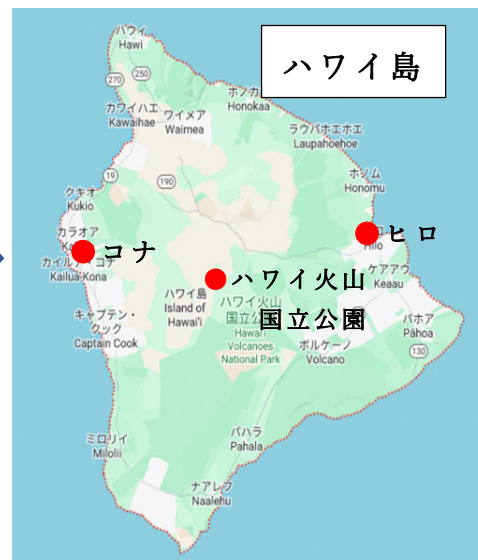
主要産品はコーヒー、マカダミアナッツ、パパイヤなど。

また、牛などの家畜の飼育や水産物の食品加工も盛ん。

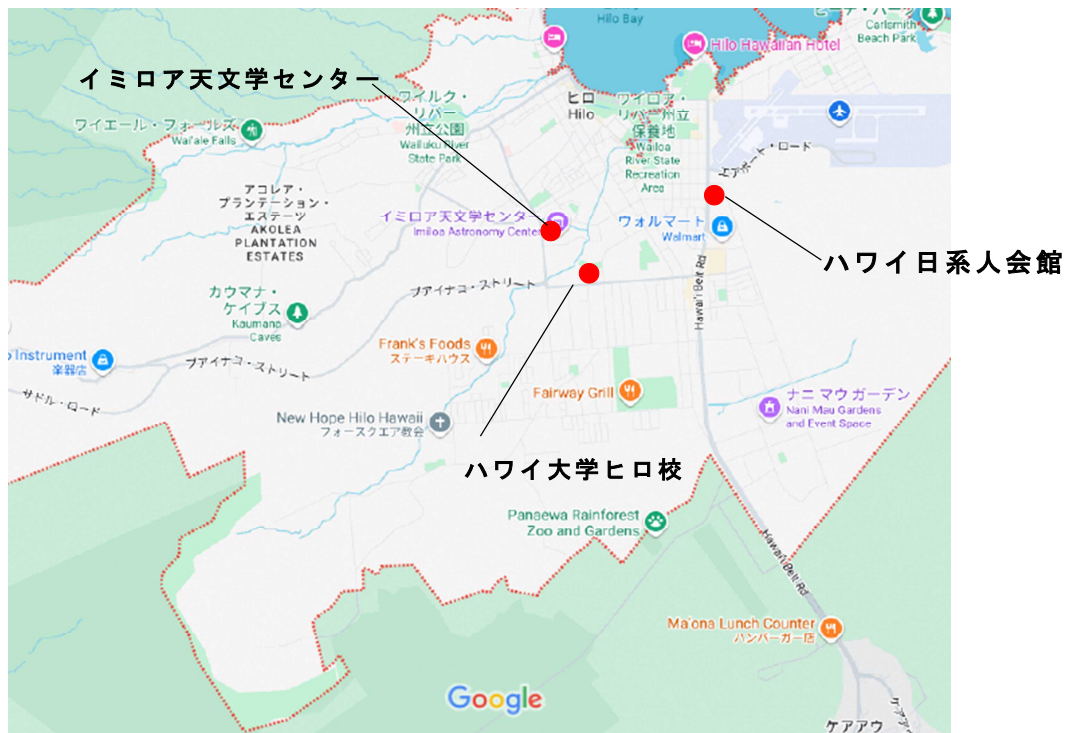
1980年代後半からはハワイ火山国立公園など、自然豊かな観光スポットによる観光産業も盛んとなり、東西の海岸線にはホテルが並ぶ。

本市との主な比較

	廿日市市	ハワイ郡
人口	115,998人	200,629人
面積	489.49km ²	10,433km ²
首 長	松本 太郎	Mitch Roth (ミッチ・ロス) ・ 郡長任期：4年 ・ 郡政委員会：9名 ※2024年11月5日～ Kimo Alameda (キモ・アラメダ)
世界遺産	世界文化遺産 「厳島神社」 1996年認定	世界自然遺産 「ハワイ火山国立公園」 1987年認定
その他	—	日本との時差マックス19時間 (前日の5時間差)



◎ヒ□



◎コナ



◎本市とハワイ州の歴史的つながり

ハワイ州では、1830 年頃から製糖業の発展による労働者不足のため、移民の受け入れが始まり、明治元（1868）年には、日本からの初めての移民 150 人が出発している。

明治 18(1885)年から日本政府が行った「官約移民」として、全国から約 3 万人がハワイに渡航したが、広島県からの移民は全国 1 位で、そのうち佐伯郡からの移民は県内の約 30%を占めるに至った。

このため、ハワイ郡には廿日市市にルーツを持つ日系人が多く在住しており、島内の 2 つの広島県人会組織が郡内の主要な団体として、日本文化の継承や地域の発展を目指した活動を展開している。

本市から海外への移民数

（出典：廿日市町史ほか）

地御前村 2 9 7 人

廿日市村 2 3 7 人

大野村 1 8 4 人

平良村 1 7 8 人

宮内村 1 7 0 人

原村 9 0 人

※上記は、明治 18 年から 27 年ごろの人数



海外渡航在村者感謝会の様子

（昭和 11 年：地御前村）出典：廿日市町史

廿日市市における交流の歴史

◎廿日市商工会議所とコナ・コハラ商工会議所の交流

平成 18(2006)年	両商工会議所の姉妹提携調印
平成 19(2007)年	第 1 回みやじまパワートライアスロン大会に、ハワイ郡コナからの 2 名の招待選手が参加
平成 23(2011)年	廿日市市・ハワイ島コナ文化友好フェスティバル 2011 開催 (廿日市市でフラダンス公演、ハワイ郡で栗栖神楽団公演等)
平成 28(2016)年	廿日市市市制施行 30 周年・廿日市商工会議所設立 20 周年記念ハワイアンコンサート開催

◎本市とハワイ郡の姉妹都市提携に向けた経緯

令和 5 年（2023 年）の状況

- 3 月 ミッチ・ロス郡長夫妻が廿日市市長を表敬訪問
- 5 月 廿日市商工会議所を通じて、ミッチ・ロス郡長から姉妹都市提携について本市へ提案
- 11 月 ハワイ郡長の代理として、アーサー・タニグチ氏らが本市を表敬訪問し、本市は姉妹都市提携に向けた申入れを受ける。

申入れの内容と表敬訪問の状況

令和5(2023)年11月に、ハワイ郡議会の議決に基づくミッチ・ロス郡長からの申入書を、郡長代理らの訪問団から受け取った。

また、廿日市市国際交流協会による歓迎レセプションが開催された。



《表敬訪問出席者 令和5(2023)年11月13日》

- ★ハワイ郡側：ミッチ・ロス郡長(オンライン)
ハワイ郡日本国名誉総領事タニグチ氏
日系人商工会議所会員ほか
- ★廿日市市側：市長、副市長、市議会議長
商工会議所及び国際交流協会役員

(申入れの要旨)

- ◆ハワイ郡長と議会は、特に太平洋地域での姉妹都市を推進してきた。
- ◆郡の日系移民の多くは広島県出身であり、親密な絆がある。また、両自治体は世界遺産を有しており保存する責務を負っている。
- ◆また、双方の商工会議所は既に良好な関係を確立しており、ハワイ郡の2つの広島県人会からも、ハワイ郡と廿日市市の姉妹都市提携を促進するよう要請されている。
- ◆ハワイ郡では、郡の人々と歴史的、文化的、民族的関係を共有していること、双方の市民にとって利益(価値)に関する共通の繋がりがある都市と姉妹都市関係を構築することとしている。
- ◆廿日市市との姉妹都市提携により、経済その他の分野において発展することを確信している。

(5) 視察派遣者名簿

区 分	氏 名（写真）	役職等
団 長	 新田 茂美	議長
副団長	 井上 佐智子	環境産業常任委員会 委員長
団 員	 梅田 洋一	文教厚生常任委員会 副委員長

■ 随行 議会事務局議事調査係主任主事 野田正宗

(6) 事前準備及の状況

■ 打合せ

日 時 令和6年7月29日(月) 10:30～11:00

場 所 第2委員会室(廿日市市議会棟2階)

内 容 各委員会による視察テーマ選定等

出席者 視察訪問者、議会事務局職員

■ 視察計画協議

日 時 令和6年8月1日(木) 13:45～

場 所 第2委員会室(廿日市市議会棟2階)

内 容 視察計画協議

出席者 視察訪問者、議会事務局職員

■ 議員研修会

日 時 令和6年8月19日(月) 13:00～14:30

場 所 全員協議会室(廿日市市議会棟2階)

講 師 アロハプログラムキュレーター 浅沼 正和 氏

演 題 国際交流の意義、ハワイの
文化、歴史等の基礎知識、
国際交流を行う上でのマナー

対 象 視察訪問者、議員、
市・議会事務局の職員



研修会の様子

■ 事前説明会

日 時 令和 6 年 9 月 17 日 (火) 14:00～15:30

場 所 廿日市市役所 7 階会議室

内 容 視察訪問における日程等の
説明及び注意事項

出席者 視察訪問者、市・議会事務局職員



参加者全員での最終確認の様子

■ 資料確認

日 時 令和 6 年 9 月 25 日 (水)

場 所 第 2 委員会室

内 容 視察時使用資料（地御前地区コミュニティメッセージDVD）
視聴及び視察報告書の作成等について

出席者 視察訪問者、職員（地域振興部国際交流・多文化共生室）、
議会事務局職員

■ 文教厚生常任委員会・環境産業常任委員会合同協議会

日 時 令和 6 年 11 月 25 日（月）議員全員協議会終了後（14:40～16:10）

場 所 第 2 委員会室

内 容 視察報告事項確認

出席者 正・副議長、文教厚生常任委員・環境産業常任委員（視察訪問
者を含む。）、議会事務局職員

(7) 視察行程表

	月 日	地 名 等	時 間	交通機関	日 程
1 目 目	9 月 28 日 (土)	廿日市市役所 発	13:30	専用車 (バス)	福岡空港へ
		福岡空港着	18:30		国際ターミナル着 搭乗・出国手続き
		福岡空港発	20:40	航空機	ハワイアン航空 (HA-828)にてホノル ル・ダニエルKイノ ウエ国際空港へ
		[日付変更線通過]			
		ホノルル	10:10		空港内で入国審査・ 税関審査後、国内線 へ乗換え(空港内昼食)
			12:25	航空機	ハワイアン航空 (HA-262)にて空路ハ ワイ島ヒロへ出発
		ヒロ	13:19		ハワイ島・ヒロ国際 空港到着
			14:20 頃	専用車 (VAN)	ヒロ内視察へ出発
			14:30		◎ハワイ日系人会館 視察
			15:15	専用車 (VAN)	(移動)
			15:30		◎イミロア天文学セ ンター(ハワイ大 学ヒロ校内)視察
			16:30	専用車 (VAN)	(移動)
			16:50		ヒロ・ハワイアンホ テルチェックイン
			17:30 ～20:00	(ホテル内)	◎ハワイ郡主催歓迎 レセプション ①松本市長プロモ ーション、②議長 挨拶、記念品交換 等、③けん玉パフォ ーマンス (ホテル宿泊)

	月 日	地 名 等	時 間	交通機関	日 程
2 日 目	9 月 29 日 (日)	ヒ ロ	7:30	専 用 車 (VAN)	朝 食 ・ チェックアウ ト 後、専 用 車 に て 視 察 へ
			11:00		◎ ヒロ内視察 ハ ワ イ 火 山 国 立 公 園、カメハメハ大王 像、日系スーパーマ ーケット(旧地御前 村出身者起業の商 店)
		コ ナ	12:30		(移 動)
			14:00	(ウエステイ ンハプナゴ ルフ場内)	コナ広島県人会主催 昼食会参加
			15:00	専 用 車 (VAN)	(移 動)
			15:30		ロイヤル・コナリゾート ホテルチェックイン
				専 用 車 (VAN)	(移 動)
			16:00 ～ 19:30		◎ ネルハ・ホストパ ーク視察 ◎ ブルーオーシャン 養殖場視察 ◎ ビッグアイランド アバロニ視察
				(ビッグア 일랜드ア バロニ内)	◎ ハワイ郡議会・東 ハワイ広島県人会 主催夕食会) ① 議長挨拶、記念 品交換 ② 団員挨 拶、議員間交流等
			19:30	専 用 車 (VAN)	ホテルへ移動 (ホテル宿泊)

．	月 日	地 名 等	時 間	交通機関	日 程
3 日 目	9 月 30 日 (月)	コ ナ	8:00	専 用 車 (VAN)	朝 食 後、専 用 車 に て 視 察 へ
			8:30	専 用 車 (VAN)	◎ グ リ ー ン ウ ェ ル ・ フ ァ ー ム 視 察 (移 動)
			10:00		◎ コ ナ ワ エ ナ 高 校 視 察 (移 動)
			11:30	専 用 車 (VAN)	キ ン グ カ メ ハ メ ハ ホ テ ル 到 着 ◎ コ ナ ・ コ ハ ラ 商 エ 会 議 所 主 催 ビ ジ ネ ス ラ ン チ 参 加 ① 松 本 市 長 プ ロ モ ー ー シ ョ ン、ス ピ ー チ 等、② 展 示 ・ パ レ ネ リ ス ト に よ る ク チ ャ ー 等、③ 交 流 ・ 意 見 交 換
			14:00		(移 動)
			16:10		ホ テ ル 着
			17:00 ～ 20:30	(ホ テ ル 内)	◎ ロ イ ヤ ル ・ コ ナ リ ゾ ー ト ホ テ ル 主 催 お 別 れ デ ィ ナ ー 交 流 ・ 意 見 交 換 等 (ホ テ ル 宿 泊)

・	月 日	地 名 等	時 間	交通機関	日 程
4 日 目	10 月 1 日 (火)	コナ	7:45	専 用 車 (VAN)	朝食・チェックアウト 後、専用車にて視察へ 出発
			8:00		◎ハワイ郡庁舎視察
			9:00	専 用 車 (VAN)	エリソン・オニヅカ・ コナ国際空港へ移動
			9:15		エリソン・オニヅカ・ コナ国際空港到着
			11:24	航空機	ハワイアン航空 (HA-217) にてホノル ル・ダニエルKイノウ エ国際空港へ出発
			12:19		ホノルル・ダニエルK イノウエ国際空港到着
			14:15	航空機	空港内で搭乗手続き・ 出国審査後、ハワイア ン航空 (HA-827) にて福 岡空港へ
[日付変更線通過]					
5 日 目	10 月 2 日 (水)	福岡空港着	18:40	航空機	福岡空港到着後、入国 審査・税関審査
		福岡空港発	19:40	専 用 車 (バス)	廿日市市役所へ出発
		廿日市市役所 着	23:40		廿日市市役所到着 (解散)

2 視察総括

団長 新田 茂美

【視察訪問の経緯】

本市では、平成 10 年にニュージーランド マスタートン市と姉妹都市提携を行っており、今回のハワイ郡との姉妹都市は、令和の時代になって初めての提携となったものである。

これまでの経緯であるが、平成 18 年 5 月、廿日市商工会議所とハワイ郡コナ・コハラ商工会議所が姉妹提携を締結して以降、商工会議所間の交流事業は継続されていた。こうした中、令和 5 年 3 月にミッチ・ロス郡長夫妻が市長を表敬訪問され、5 月に廿日市商工会議所を通じて本市とハワイ郡の自治体同士の姉妹都市提携の打診があった。令和 5 年 11 月 13 日、ハワイ郡長の代理としてアーサー・タニグチ氏らが本市を表敬訪問され、姉妹都市提携に向けた申入れを受けた。正式な申入れを受けたことにより、令和 6 年 4 月 15 日、ハワイ郡からの訪問団に本市を訪問していただき、ウッドワンさくらびあ小ホールにおいて、本市とハワイ郡との姉妹都市提携協定書に調印した。

同年 4 月 26 日、市長から議会に対し、ハワイ郡視察訪問事業の計画が示されたため、議会運営委員会等での協議を経て、本市議会からも視察団を派遣することとした。

【事前研修】

ハワイ郡とは、明治時代以降、本市から移民として渡航された人が多いという歴史的な背景があり、また、両自治体は、ともに世界遺産を有していることや、海から山までの豊かな自然に恵まれていること、農業

や水産業が盛んであることなど共通点が多くある。令和6年8月19日、今回の視察訪問が有意義なものとなるよう、また、議会全体で視察テーマを検討するため、国際交流の意義やハワイの文化、移民の歴史などについて理解を深めることを目的に、全議員を対象に現地情報に詳しい外部講師による事前研修会を実施した。

今回の議員派遣は、新たな海外派遣要綱での初めての海外視察であったが、大きなトラブルや事故も無く無事に終了し、また、3泊5日の限られた日程の中で所期の目的を概ね達成出来たものである。

今回の議員団の派遣目的は、本年4月に本市へ訪問していただいたことに対する答礼、そして、姉妹都市との友好親善並びに相互理解を深めるとともに、文化、経済、都市事情その他必要な事項を視察調査し、国際性の涵養と資質向上に務めその成果を市政の発展に寄与することである。

今後、市がハワイ郡と姉妹都市提携を結んだ内容に沿って議会に対して提案されてくる交流事業や取組等に対し、議会としての判断を行う上で適切な審査、協議及び判断が出来るものと考えている。

視察訪問先のハワイ郡のメンバーであるハワイ郡の議長、副議長及び女性議員の3名とは、昨年及び本年の本市への訪問を含め3度目の交流機会であり、リラックスした中で有意義な視察ができた。

さらに、到着当日は、空港で郡長夫妻をはじめ多くの人に暖かい出迎えを頂き、長時間のフライトによる疲れも忘れ、ハワイの気候と同様に晴々とした良い気持ちで現地での視察をスタートさせた。

以降日程に準じて施設ごとに総括する。

◎ 1 日 目

ハワイ島ヒロ空港到着後、専用車により早速最初の視察先であるハワイ日系人会館に移動した。

「ハワイ日系人会館」

館長さんからは、本市から多くの人がハワイ島へ移住した日系移民の歴史、移住後の生活の様子やそれを取り巻く環境についての説明を受け、そのご苦労や生き抜くために取り組んでこられたことに深く感銘を受けた。



ハワイ日系人会館

また、この施設には、現地のコミュニティーから寄贈された日本とまったく同じおもちゃ、服、道具などの展示物があり、遠く離れたハワイにあっても故郷と同じ習慣や生活を大切にされていたことに改めて感じるところがあった。これらは、今もなお大切に保管・展示され、日系1世の皆さんの当時の思いは、日系2世、3世の時代になっても受け継がれている。



ハワイ日系人会館内における説明の様子

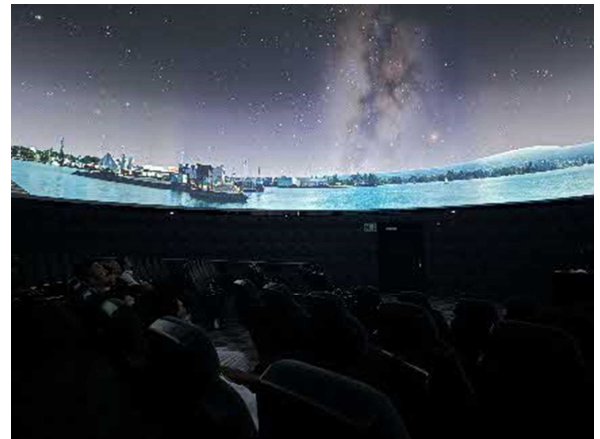


ハワイ日系人会館内展示物

視察を通じて、本市とハワイ郡の歴史的なつながりの深さと、第二次世界大戦下の日系移民の苦難をベースとした平和の大切さを改めて感じた。また、言葉や文化の異なる環境下で、どの様に人や社会との関係性を築いたかを学ぶことは、今後の本市における多文化共生社会の実現に向けて大いに参考になるものと思われる。

「イミロア天文学センター」

次に訪問したハワイ大学ヒロ校内にある「イミロア天文学センター」では、当地の説明や多くの体験型展示や3Dによる立体的なショーが見られる最新型のプラネタリウムもあり、どれも大変すばらしいものであった。



3Dによる映像（プラネタリウム）

また、この施設には、島固有の植物が見られるネイティブガーデンも併設されている。

ハワイ諸島は今から約500万年前の海底噴火による海底隆起の後プレートの移動で各島が作り出され、大小132の島々で構成され、ハワイ島は、ハワイ諸島の他のすべての島を合わせたものより大きい最大の島である。

「イミロア天文学センター」の「イミロア」とは、ハワイ語で「探検者、探求」の意味であり、かつて天体を頼りに遠くミクロネシアから渡航をして来た人々が使



イミロア天文学センター
視察派遣者一同

していた伝統航海カヌーホクレア船の復元・展示もあり歴史を感じた。
また、ここが世界でも有数の天体観測の地であるのもわかる気がした。

「すばる望遠鏡」

標高 4,200m のマウナケア山頂は、気圧は平地の 3 分の 2 しかなく、地上の天候システムに影響されない高さにあるため、快晴の日が多く、乾燥し、貿易風がハワイ諸島上空を滑らかに吹き、雲が山頂まで上ってくることは稀とのことである。近くに大きな都市もなく、天体観測を妨げる人工的な光はほとんどないことから、天体観測に最適な場所の一つとして知られ、マウナケアの山頂域に設置されたこの望遠鏡に使用されているレンズは直径 8.2m もある、一枚物のレンズでは世界最大とされ、日本製とのことで、ここにも日本の技術が発揮されていた。

「歓迎レセプション」

ハワイ郡主催で行われた歓迎レセプションは、ホテルのエントランスで地元和太鼓のメンバーによる演奏で始まった。勇壮で息の合った演奏は日本のものに勝るとも劣らぬもので、ハワイでも珍しいのか、一般のホテル宿泊客も見入っていた。

レセプションは、ハワイ郡長夫妻をはじめハワイ郡議会議長夫妻、日本国名誉領事、ハワイ郡内の 2 つの商工会議所及び地元広島県人会など総勢 90 名が参加する盛大なものであった。私は、ハワイ郡の議長夫妻、女性議員、地元広島県人会の方々と同席させていただき、昨年及び今年、本市を訪問いただいた際のお礼を伝えた。

市長による本市のプレゼンテーション及び本市とハワイ郡による記念

品交換の後、本市議会を代表して挨拶を述べた後、ハワイ郡議会議長に記念品としてお砂焼きの花瓶とペアカップを贈った。その際には、お砂焼きの説明も行い、本市の特産品の一つであるお砂焼きのPRを行い、郡議会議長さんには、大変喜んでいただいた。

さらに、ここでは、本市から同行した浅原在住の藤井さんによるけん玉パフォーマンスもあり、それは大変すばらしく、帯同していただき大変良かったと感じた。和やかな雰囲気の中で、レセプションが行われ、本市とハワイ郡が相互理解のもと友好親善を図る上で、有意義な時間を過ごすことができた。



ハワイ郡議会議員及び
廿日市市議会議員一同



ハワイ郡議会からの記念品贈呈

◎ 2 日 目

「ハワイ火山国立公園」

「ハワイ火山国立公園」のあるキラウエア（Kilauea）は、標高は1,250mの今なお活動が続けている活火山で、ハワイ諸島のハワイ島を構成する5つの楕状火山の1つ。島の南東部に位置し、西隣のマウナロアと共にハワイ火山国立公園に指定されている。この公園は、敷地全体が世界遺産に登録されており、2018年5月の大規模な噴火により以前にも増してさらに拡大した壮大な景色や歴史を物語る不思議な形状の溶岩台

地はここでしか見られない絶景である。現在、火山活動は安定期に入っているとの説明のとおり、火口には少し噴煙が上がっているだけで、テレビで見る真っ赤な溶岩がとめどなくドロドロと流れ出るイメージとはかなり違っていた。ハワイ島特有の植物オヒア以外はほとんどなく果てしなく溶岩台地が続いている。下山の途中、噴出口スチームベントに立ち寄ったが日本のような硫黄臭さはなく本当の蒸気が噴き出ているだけであった。

キラウエア・ビジターセンターからは、徒歩で公園内を散策し、ハワイ島固有の植物、シダの一種が大きく成長しては倒れ、またそこから芽が出て成長する過程が手に取るように理解できた。

公園内にあるボルケーノ・ハウスは公園内唯一の宿泊施設である。本来、公園内には宿泊施設は建設できないが、この宿泊施設は、公園に指定される以前に建設されたホテルであったため、現在も変わらず営業をしている。このホテルは、自然の中にマッチした落ち着いた色合いや形態で、都会のホテルとは違い自然を楽しむ宿泊客のためのものである。その日のホテルからの景色は、ちょうど虹もかかりより一層神秘的であり、筆舌に尽くし難いものであった。こうした自然を生かした宿泊施設の状況は、本市が現在検討している各種事業の参考になりそうである。



ハワイ火山国立公園内における説明の様子



ハワイ火山国立公園内宿泊施設

「カメカメハ大王像」

次に、マウナケアを下山し、ハワイ島の代表的な観光資源の一つである「カメハメハ大王像」を視察した。ハワイ諸島を統一したカメハメハ大王の像は、ハワイ州内に数体あり、そのうち、ハワイ島には、大王の故郷であるカバアウ、ワイロア川州立公園及びヒロの3像がある。ヒロの大王像は1997年に建立された比較的新しいものである。



カメハメハ大王像

「K T A（日系スーパーマーケット）」

次に、視察した「K T A」は、ヒロに本社を置く会社で、ハワイ島全体に同島最大のスーパーマーケット・チェーンを展開している。この会社は、1916年にハワイ島ヒロに、本市旧地御前村出身の日系人であるコーイチ アンド タニヨ タニグチ（Koichi & Taniyo Taniguchi）氏が仲間と小さな食料品店を設立して、顧客に品物を届けたことから始まり、その後発展して、現在は6店舗を展開するようになった。地元産の食材やハワイらしい雑貨、定番のハワイ土産など、なんでも揃うほか、日本の食材も多く取り揃えており、地元にも愛されるスーパーマーケットである。

今後、本市にゆかりある日系人が多く暮らすハワイ郡と本市の商業者間の連携や交流が盛んに行われ、共に発展できるような取組みがさらに重要となると感じた

「アイランダー日本酒醸造所」「コナ・コハラ広島県人会主催昼食会」

アイランダー日本酒の醸造者の高橋千秋氏は、山梨大学で醸造学を学び、准教授として大学で酒造りを教えたほか、酒類総合研究所に勤務するなど、醸造研究家や醸造コンサルタントとして活動した。彼女は、「日本酒もワインのように海外で作られるようになれば、海外でも日本酒を愛する文化が広がり世界的な市場になる」とのビジョンを掲げ、2020年3月にハワイ州オアフ島ホノルル市郡ココアコに「Islander Sake Brewery（アイランダー・サケ・ブリュワリー）」を開業されたそうだ。紆余曲折を経て、パンデミック直前に開業したハワイの酒蔵『アイランダー酒』は右肩上がりに業績を伸ばし、今後さらに大きく羽ばたこうと夢を追い続けているとのことである。

ここでは、コナ・コハラ広島県人会主催の昼食会も開催された。

地元で養殖された魚介類を用いた料理とアイランダー酒が用意され、地元広島県人会の皆さんと交流したが、ここでの交流は、今後推進する本市とハワイ郡との市民間交流の礎を築くことができたのではないかと考えている。



アイランダー日本酒醸造所
視察派遣者一同

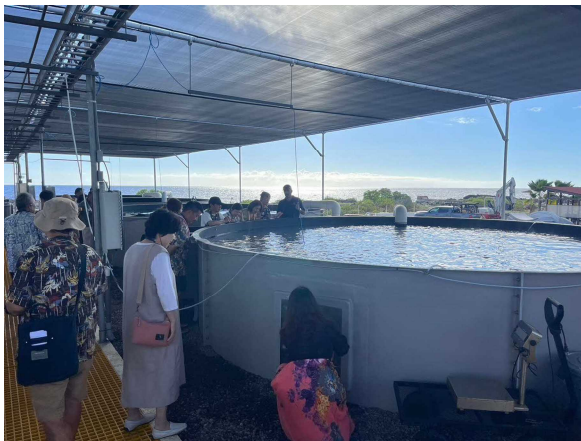
会場からは、十分に手入れをされたゴルフコースも一望でき、リゾート感十分の環境は、ハワイ郡の大きな観光資源であると感じた。

昼食会場からコナのホテルへの移動途中、ヘリポートがあったが、これは、一人5～6万円ぐらいで火山や島の絶景を上空から楽しむヘリコプターツアーの基地として使用されているとのことである。日本ではあ

まり見かけない光景であるが、ここハワイでは需要があり運営可能なの
であると思われるが、日本とは環境面や条件面などに違いがあると感じ
た。

「ビッグアイランドアバロニ、ブルーオーシャン養殖場」

次の視察地である「ビッグアイランドアバロニ、ブルーオーシャン養殖場」では、海洋深層水を汲み上げカンパチやアワビの養殖を行っている。魚介類などの限られた資源を確保するうえで、捕獲から養殖への移行は今後の食材確保には欠かせないものである。良質で安定した栄養素を確保する手立てとして、海底 3,000 フィートの深海の冷たい海洋深層水と、温かい手つかずの表層海水を毎分 10 万ガロン供給し循環する設備が必要であり、さらに、魚を各カテゴリーごとに移動していく水槽、ある程度大きくなった魚を天然の環境で育てる海洋水槽など、設備投資にかなりの費用がかかるとのことである。



ブルーオーシャン養殖場内の水槽



水槽内のカンパチ

アワビはエサの海藻の飼育や、アワビの飼育に時間がかかり、市場に出すのに最低 5 年かかるなど、今はまだ利益の得る状況ではないとの説明があった。しかし、今後天然物のアワビはほとんどいなくなり捕獲で

きなくなることが予想されることから、この養殖業は期待が持てると確信しているとのことであった。



ビッグアイランドアバロニ内の水槽



水槽から揚げたアワビ

「ディナーレセプション」

引き続き、アバロニ、ブルーオーシャン養殖場の施設内のバーベキュー広場にてディナーミーティングが行われた。参加者は、本市視察訪問団、廿日市商工会議所、そしてハワイ郡からは郡長夫妻、郡議会議員、東ハワイ広島県人会及び見学施設の関係者であった。ハワイ郡議会のイナバ副議長による食事前の感謝の歌を全員で手を繋いで聴き、食への感謝の意を表した。日本でも食事前には合掌をするが、作法も文化の違いで色々であると感じると同時に、こうした体験が出来たことは多文化を理解する上で貴重な機会となった。

ここでは、初日のレセプションで渡すことのできなかったハワイ郡議会議員の皆さんへ本市議会から用意したお砂焼きの説明を行った後、視察団3人でペアカップをそれぞれ手渡した。限られた時間



レセプション時の議長挨拶

ではあったが、1日目同様、有意義な時間を持つことができた。文化の違いもあるが、現地では、このようなセレモニーの場合は、同伴者と共に出席する習慣があり、こうした文化の違いを理解することは、これから多文化との共生を行っていく上で大いに参考になると感じた。

◎ 3 日目

「グリーンウェル・ファーム（コーヒー農園）」

コナ地区で有名な特産品の一つであるコーヒーの農園「グリーンウェル・ファーム」を視察した。ここは、コナでは最大級、そして最古のコーヒー農園の一つで、創業は1850年、170年以上商売を続けている老舗とのことである。



グリーンウェル・ファーム
視察派遣者一同

創業者はイギリスからやってきた商人、ヘンリー・ニコラス・グリーンウェル氏。コナは、午前中は偏西風により快晴で天気が高く、午後から夕方にかけて天気が崩れ雨になるという独特の気候であり、この気候を利用してこの辺りには大小100件を超えるコーヒー農園がある。農園のすぐ傍には、ヘンリーが1870年に建てた店、H. N. グリーンウェル・ストアが博物館として保存されている。ここで出迎えてくれたのは10種類のコーヒーで、それぞれローストの仕方で味が異なり、改めて奥の深さと、技術の高さを感じた。試飲後農園内の見学に移り、工程ごとに順を追って見学をさせていただき、加工機械の中には日本製（サタケ）の機械もあり日本の技術の高さも改めて認識した。



コナコーヒーの試飲



日本製の加工機械（サタケ）

「コナワエナ高校」

次の視察先の「コナワエナ高校」は、ハワイ州ハワイ島のコナ地区に二つある公立高校（9 学年～12 学年が在籍）の一つで、サウス・コナ地区のケアラケクアにあり、サウス・コナ地区の子ども達と、ノース・コナ地区の子ども達の一



コナワエナ高校

部も通う高校である。以前は同じ敷地内に小学校、中学校も併設されており、全生徒数が千人を超える時期もあったとのことであるが、小学校はすでに州道を挟んだ高校の反対側の新校舎へ引っ越している。この学校の歴史は古く、歴代の校長先生や有名人には日系人の名前も多く見られた。

高校付近はコナコーヒーで有名な地区であり、1932 年から 1968 年までは、夏休みが他の地区の学校よりも遅い 9 月から 11 月までの期間に変更され、生徒たちが家族が栽培するコーヒーの収穫を手伝えるようになっていたそうである。

今回、高校生が体育館で授業しているところにお邪魔し、同行の藤井さんが子ども達の前でけん玉の技を披露する機会があった。その時の子ども達の反響はとてもよく、お土産に持参したけん玉も大変喜ばれていた。その後、3人の子ども達に学校生活や日本の印象などについてインタビューした。

「ビジネスランチ」キングカメハメハホテル

次に、コナコハラ商工会議所主催のビジネスランチに参加するため、キングカメハメハホテルへと向かった。ここでは、先日訪問したブルーオーシャン養殖場のブースがあり、現地商工会議所のメンバーによる特産品などのレセプションが行われた。また、ここでは、市長による本市のプロモーションも行われ、私は、実際に地元特産品等を味わいながら、お互いのまちについての理解を深めるとともに、参加者とディスカッションができ、大変有意義な時間となった。

「お別れディナー」ロイヤル・コナリゾートホテル庭園会場

ハワイ郡滞在最後の夜となるこの日は、ホテル主催の「お別れディナー」に参加した。会場には、一般の宿泊客もおられ、美しい夕景の中、ここでも藤井さんによるけん玉のパフォーマンスが飛び入りで行われ、本市発祥のけん玉の技が多くの人を魅了していた。また、1日目にお世話になったタニグチさんとヤマナカさんがヒロからわざわざ来られ、今回の視察でお世話になったお礼を伝えるとともに、本市とハワイ郡との今後の交流を約束した。

◎ 4 日 目

「ハワイ郡庁舎のウェスト・ハワイ・シビックセンター」

ホテルのチェックアウト後、専用車でハワイ郡庁舎のウェスト・ハワイ・シビックセンターを訪問し、ハワイ郡の職員に庁舎の案内をしていただいた。訪問が朝早かったかもしれないが日本の行政窓口のように混雑した様子もなく、来庁者も少なく落ち着いた感じであった。



ウェスト・ハワイ・シビックセンター

さらに、ハワイ郡議会のイナバ副議長に議場を案内していただいたが、議場内は、全議員の議席が弧状に並び、その前に執行者が議席に向かって着席する席が2席あるのみで、傍聴者席が多く用意されているなど、日本の議場とは、席の配置や雰囲気などがまったく違うと思った。

「エリソン・オニヅカ・コナ国際空港」

帰国の途につくため、ハワイ郡庁舎からエリソン・オニヅカ・コナ国際空港に向かった。ここは、2017年1月にコナ国際空港から名称が変更され、新しい空港名は、ハワイ島コナ出身で、1986年のチャレンジャー号爆発事故により殉職した宇宙飛行士、エリソン・オニヅカ氏に由来している。

市長をはじめとする市長部局職員及び同行したけん玉の藤井さんの協力により、議員視察団は、視察期間中、特に大きな問題もなく全行程を

無事終えることができたことに感謝申し上げます。

また、今回の視察が円滑に進み所期の目的を概ね達成することができたのも、視察先で対応していただいた現地ハワイ郡の関係者の皆様、さらには、現地で合流し、ともに交流事業に参加していただいた廿日市商工会議所の皆様のおかげであり、市議会視察団を代表して深く感謝申し上げます。

今後は、この視察で学んだ知識や体験を議会や市政に反映し、本市とハワイ郡双方の市民間の交流が末永く継続され、ともに発展されるよう議会として支援していくことを誓い、団長としての総括とする。

3 視察団報告

(1) 副団長 井上 佐智子

はじめに

今回の訪問の目的は、環境産業常任委員会を代表し、姉妹都市であるハワイ郡との友好親善並びに相互理解を深めるとともに、「ハワイ観光戦略プラン 2020—2025」に定める【再生型観光】の4本の柱である、「自然保全」「文化継承」「コミュニティ・リレーション（地域社会との良好な関係構築）」「ブランドマーケティング（特定の商品・サービスに関連するブランドの価値を構築・強化・伝達するための戦略的な活動や取り組み）」について調査することと、さらに海外市場に販路を求める本市の企業に対して、ハワイ郡への拠点設立や販路開拓への支援について調査研究することであった。

◎ 1 日目

「ハワイ日系人会館」

ここでは「文化の継承」について深く考えさせられた。

また民俗資料の保管と展示の大切さ、そして日系の方々の「後世へ伝える」という強い使命を感じた視察だった。

展示品には、移民の皆さんを広島から送り出した側の、当時の鍋嶋広島県知事の手紙があり、「日本人として恥の文化を大切にすること。お酒を飲みすぎないこと。それは労働にさわるからである。また雇い主の言うことをよく聞いて仕事をする事」など細かな注意と激励の内容であった。また、柳ごうりに「布哇」という文字で住所が書いてあり、ハワイ国内での転居時に使用したものらしく、船を使った以外では自分で

担いで移動したものと思われ苦勞がしのばれた。

日系の方の説明では、日本の真珠湾攻撃による太平洋戦争開戦までは、ハワイの人、日系の人のほか、様々な国の移民の人々と共生していた。しかし、日米開戦の翌年 1942 年に、アメリカ西海岸とハワイの一部の地域に住む日系人は、その 7 割がアメリカ生まれの二世で市民権を持っていたにもかかわらず、強制収容所に送られた。その時、二世達は、「一世はなにもしなくてよい。私たちがアメリカに忠誠を誓う」といって進んで従軍したそう。この話を聞いたとき、私は親を思う子ども達の強い思いに胸が締めつけられた。

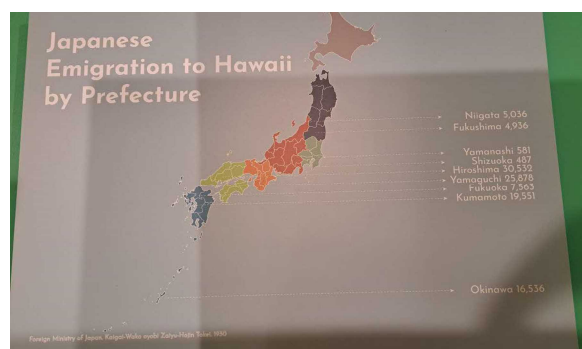
この会館には、当時の様々な写真、鍋、釜、着古された着物、娯楽映画のポスターなど、これら民俗資料に分類される品々があり、移民として異国で働く日本の人々の暮らしや不屈の精神までも彷彿させるものであふれていた。

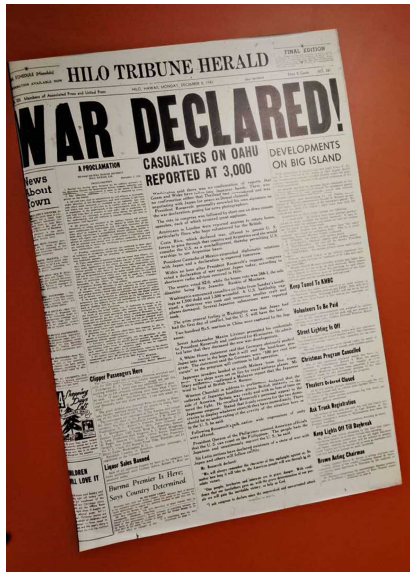
しかしこれは、「語り部」がいてこそ伝えられるものだと言える。

現在、本市が取り組んでいる宮島歴史民俗資料館改修計画においても、この点を充分参考にして欲しい。

広島平和記念資料館における被爆の実相を伝えることについても、「語り部」の存在があってこそ自分事として聞く手だてとなる。ハワイ日系人会館を訪問して「伝えたい」という真摯な思いこそが資料館などの施設の生命線だと感じるとともに、民俗資料の保管・展示の意義を再確認した。

1930 年（昭和 5 年）
ハワイの移民数の歴史地図





ヒロ トリビューン ヘラルド紙
「宣戦布告」

今回の友好都市締結の節目に、本市においても市内全域に分散するハワイ州への移民の歴史をまとめ、保存し伝承することを目的とした事業の創設の必要性を感じた。

◎ 2 日 目

「ブルーオーシャン養殖場及びビッグアイランド養殖場」

ここでは、付加価値の高いカンパチとアワビに特化してその生産・販売事業に「投資」していた。

また、海洋深層水を汲み上げて使用しており、海洋深層水には、浸透圧コントロールによる品質保持機能が高い特徴があるそうで、経費は掛かるが、付加価値を高めて競争力をつけることに役立っているようだ。

アワビは、天然のアワビに卵を産ませて養殖するのだが、乱獲によりそれが困難になっていることと、卵がガラス板にくっつき成長するにはおおむね3年間、一週間ごとに水槽の水を入れ替える必要があることが課題のようだ。

本来5年物^{もの}が高級品として日本円で1個5万円前後で売れるそうだが、5年物^{もの}の半数は途中で死んでしまうので、出荷は3年物^{もの}にしているそう
だ。

その理由として3年物は死滅する可能性が低いことと、購入者も5年物より安価なため買い求めやすい。だから生産者としても収入になるのが早いということだった。

なお、アワビの主な輸出先は中国だということだった。

ここでの労働者の時給は3,000円だが、近いうちに時給3,500円で募集する予定とのことだった。

日本の2024年の全国平均最低賃金が1,050円と言われており、本市では牡蠣打ちや弁当製造業などの業種は外国人労働者に頼っているため、いずれ労働者不足に陥ることが予測される。

官民協働により、住居の確保、わかりやすい日本語による住みやすいまちとしての対応の強化など、早い段階で対処しなくてはと痛感した。

また今後、より生産性の高い漁業の在り方などについても、調査研究していく必要があると感じた。



アワビの卵



成長したアワビ

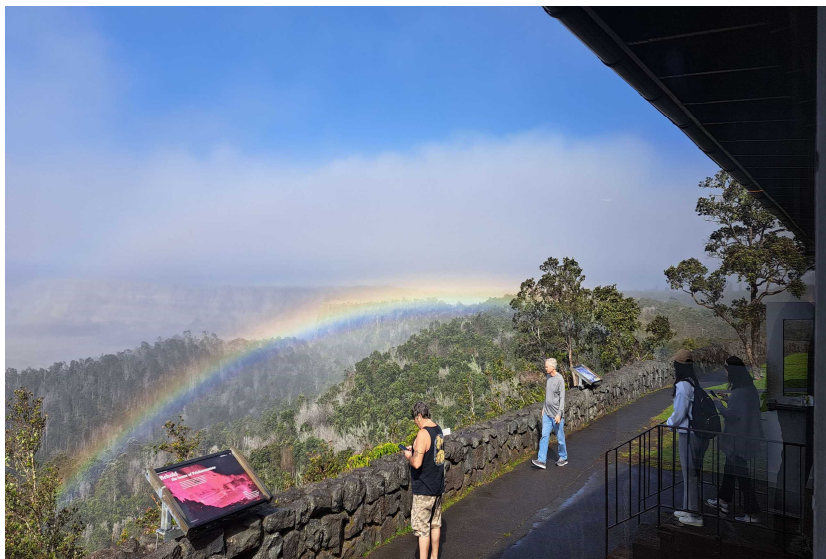
「ハワイ火山国立公園」

この公園は 1987 年に世界遺産（自然遺産）に登録された。日本のように柵で囲んで物々しく管理するという形ではなく、自然の景観をそのまま観察できるようにしている。

今回、運転手の方が自発的に火山の噴火を撮影し、私たちに見せてくれた。このような地元の方の観察記録や説明は地元愛を感じ、また運転と共に案内ガイドも行っており、京都の観光タクシー運転手を彷彿させた。これも重要な観光ポイントになる。

ハワイ火山国立公園での世界遺産の活用では、トレッキング、写真撮影会など自然環境を活かしたものが考えられる。

宮島でも市が主催する健康ウォーク、民間が主催するトレイルランニング、写生大会など、宮島の自然、文化財等を活用した事業を行っているが、今後は、世界遺産がある宮島と西中国山地国定公園を代表する吉和地域の冠山や十方山、なかでも十方山のブナ林、中津谷溪谷、細見谷溪谷、瀬戸の滝など四季を通じて自然を満喫できる事業を結び、宿泊型でテーマ募集型の旅の提案を様々な展開していくと良いと思う。



ハワイ火山国立公園内の風景

◎ 3 日 目

「コナ・コハラ商工会議所主催のキング・カメハメハ・ホテルでのビジネスランチでの交流」「ロイヤル・コナ・リゾート主催によるお別れディナー」

現地の商工会議所とコナ日本人会から大勢の参加があり、商工会議所の会員の経済交流に関する発表があった。開口一番「日本への輸出は、規制が多くて大変難しい」とおっしゃり、対応策としてコナ・コハラ商工会議所では、一定の内規を作り、「いい商品をつくり認定ラベルを貼り信用を得る。」ことをし、「信用が見える化して」輸出していた。このような工夫を、本市も官民一体で取り入れなければならないと思う。

ここでは、松本市長もプレゼンテーションを行った。



コナ・コハラ商工会議所主催の
プレゼンテーション

本市とコナ・コハラ商工会議所の商工業者間の交流も友好的な雰囲気で行われた。今回の人的交流を継続し、経済交流に関しては、ニーズ調査とその情報交換をしながら、お互いが発展するような形で進んで欲しい。

◎ 4 日 目

「ウエスト・ハワイ・シビックセンター」

ウエスト・ハワイ・シビックセンターの案内役はイナバ副議長で、以前ここにはすべての公共施設があったそうだが、人口の増加に伴い裁判所、運転免許センターは分散設置された。

庁舎は木をふんだんに使い、災害時には避難所として使用できる機能を備えていた。

庁舎見学後、イナバ副議長が「これから議会がありますので」と言って退席され、私たちも見学のために副議長についていくと、オンラインで議会が始まった。

日本では新型コロナウイルス禍以降、委員会や議員全員協議会におけるオンライン会議が特別な理由がある場合に限定されてはいるが制度として認められるようになった。議決を行う本会議のオンライン会議については、現在、国において議論が行われている状況である。国家により議会に関する法律や仕組みが違っていると改めて感じた。



ウエスト・ハワイ・シビックセンター

所見（まとめ）

この度の視察では「交流」という言葉が浮かんた。言葉や文化、考え方の違う国と良い関係を築き信頼を得られるように努めるのは、自治体でも人でも同じだろう。

9月28日のレセプションで発表した地御前地域の方々と地御前市民センターと一緒に作成したDVDは好評だった。この中で、地御前小学校の児童たちの校歌の合唱やゆかりのあるお寺の住職なども出演されていて、現地の参加者からは大きな歓声が上がった。今回のDVD作成をきっかけとして、ハワイ郡と甘日市市の市民同士の交流を広げていってほしいと感じたところである。

また、環境産業常任委員会としては、観光面では、今まで観光案内における多国籍言語表記やインターネットを使つての案内・発信、観光上の注意喚起の方法など、「伝えるツール」の開発や提供に留意してきた。

しかし、今回の視察を通じて、SNSなどの発達により翻訳機能も充実し、自治体としては多国籍言語での案内などに注力することなく、それよりもソフト部分ともいえる、市民がお客様を笑顔でお迎えするという「人間の魅力」によるもの、「おもてなしの精神」を醸成することが重要と思えた。

そのためには「ハワイ観光戦略プラン 2020-2025」に定める【再生型観光】の4本の柱である、「自然保全」「文化継承」「コミュニティ・リレーション（地域社会との良好な関係構築）」「ブランドマーケティング（特定の商品・サービスに関連するブランドの価値を構築・強化・伝達するための戦略的な活動や取組み）」を参考に、本市の事業でも折に触れてチェックポイントとしたい。

基本となる指標としては、SDGs 17 の目標のうち、例えば「6 安全な水とトイレを世界中に」「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「8 働きがいも経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「13 気候変動に具体的な対策を」「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさも守ろう」を推進することで、観光客には本市の魅力を提示することができ、廿日市市民もまたここに住んで良かったと思えるようになるのではないかと確信した。

最後に、経済面では官民協働の上、積極的販路拡大については、本市の商工会議所及び商工会と共に本市も支援を充実することが必要だ。その場合、公平、単純明快な支援基準を基盤とし、モデル事業として公開募集の上、やる気のある事業者への積極的支援という形が望ましいと思う。この点は、議会としても後押ししていきたいと思う。

このことによって本市の特産品を世界に売り出すという分野では、本市の独自色が出せるのではないかと考える。

(2) 団員 梅田 洋一

はじめに

本訪問は、令和6年4月の友好都市提携時、本市に多くの現地関係者が訪れたことに対する答礼としての意義がある。

議会としては、まずは相手議会、議員との交流、親交を深めることが目的である。

また委員会としては、文教分野の観点で、移民の歴史や留学制度など教育を中心とした視察ができればと臨んだ。

◎ 1 日目

「ハワイ日系人会館」

移民の歴史を本市でも伝承していくため、特に日系人の活躍や当時の苦悩などを確認できればと視察に臨んだ。

人々が集う場所である「GARAGE」（ガレージ、車庫）と名付けられた展示室には、現在の日本にも残っていないような多くの展示棚には貴重な品々が展示されていた。

説明のなかで、移民当初は、他のアジア系移民と一緒に、同じ釜を囲んで生活していたとの言葉が印象的であった。また、昭和16年(1941年)の真珠湾攻撃後、日系2世は、捕虜収容所への収容を免れるため、そして、アメリカ合衆国への忠誠を示すため、アメリカ兵として志願したとの歴史も語られた。

私自身も被爆3世であることを踏まえ、史実に目を背けず、戦争があったことを伝承していくことは大切であるが、相手国への非難ではなく、未来に向かって何ができるのかという観点で次世代に伝えていきたいと

の想いを強くした。

さらに、現地で暮らす通訳の日本人の方から、当時の移民日系人の活躍により、現在も日本そして日本人への理解が深いため、ハワイ島での生活や仕事はしやすいとの意見が聴け、大変誇らしい気持ちとなった。

「イミロア天文学センター」

ハワイ大学ヒロ校内にある施設のため、当初は日本人の進学や留学状況などを確認できればと思っていたが、結果としては天文学センターの展示やプラネタリウムを視聴して、ハワイの成り立ちを確認するにとどまった。

一方で、ここで感じたことは、本市には本市全体の歴史を総括して伝えていく施設がないため、今後新築移転が予定される宮島歴史民俗資料館内において、宮島を中心としながらも、今回の移民の歴史も包含した本市の歴史が伝えられるようなコーナーを設置することも考えられるのではないかと強い気づきを得た。

「ハワイ郡長オフィス主催によるヒロ・ハワイアン・ホテルでの歓迎レセプション」

本訪問最大の約 90 名が参加するレセプションであった。レセプションの前には、現地和太鼓によるパフォーマンスがあり、最後の演目「SOUVENIR」（スーベニア、お土産）と題された意味が「自由な精神」と聞かされ、文化や友好の精神は国境を越えると確信できる感動的な瞬間であった。

レセプション内では、ともにフラを踊るなどして親交を深めることが

できた。本市でもフラの愛好者は多いので、フラによる市民交流の機会創出は可能ではないかと感じた。



レセプション前の
和太鼓パフォーマンス



レセプション時のフラ

◎ 2 日 目

「ハワイ火山国立公園」

ハワイ火山国立公園では、世界自然遺産(宮島は世界文化遺産)に関する現地教育の状況の確認を当初の目的としたが、実際は公園内を見学する中で、ハワイ人の先祖代々の言葉であるハワイ語の復活に至る話を道中で聞くことができ、感銘を受けた。

本市は、多くある自然の魅力を十分に商業的に生かしきれておらず、教育の側面からも、文化的な歴史だけでなく、もっと自然的な成り立ちに焦点をあてることができれば、キラウエア火山に倣い、ストーリー性をもったコンテンツになり得る可能性があると感じた。

「カメハメハ大王像」

ハワイ島は元来王国であり、現在もハワイ島の土地は、カメハメハ財団またはハワイ州の所有となっているため、戦略的な開発ができるとのことであった。

ハワイは、アメリカに統合され、ハワイ独自の文化や言語が消滅の危

機にあり、その文化や言語を守るため、名門私立学校であるカメハメハ・スクールでは、あえてハワイ人を先祖に持つ人への教育が行われていることなども聞かされ、あらためて国際教育において、まずは相手国とは前提条件が違うことを認識しなければならないことを痛感した。

そして、本市で将来活躍する人材は本市で育てる気概が大切であると感じた。

「K T A スーパーマーケット」

旧地御前村出身のタニグチ氏の名前に由来するスーパーマーケットであり、日本食材が豊富なため、現地の日本人の方は他よりもK T Aをよく利用するとのことであった。

「K T A」とは、「K T」はタニグチ氏のイニシャルであるが、当時同じイニシャルの同業者がおり、荷受け時によく間違えられたため「A」を付け加えたことがタニグチ氏の子孫から明かされ、現地で暮らす日本人も知らなかった事実が判明する驚きの現場に遭遇することができた。

店内には暗号資産への両替機が設置されていることに驚くとともに、文化の違いだけでなく、日本にはない先進事例も本市に伝えていくことは、教育や交流には大切なことではと感じた。



K T A スーパーマーケットに
設置されていた暗号資産への両替機

「ブルーオーシャン養殖場およびビッグアイランド養殖場」

ブルーオーシャン養殖場では、カンパチを、ビッグアイランド養殖場では、アワビを養殖しており、莫大な投資と試行錯誤の結果、ようやく商業的な収支となりつつあるとのことであった。

周辺には海洋学の学校もあるとのことで、商業と教育が一体となっていることは、本市も目指すべき方向性であると感じた。

「ハワイ郡議会、東ハワイ広島県人会主催のビッグアイランド養殖場での夕食」

議会として本訪問最大のイベントであるハワイ郡議会との交流の場となった。

多くのハワイ郡議会議員も出席し、選ばれる仕事である議員であることの苦悩なども共有することができ、議長以下3名の訪問者が公式に挨拶できる唯一の場となった。



NPO法人職員日本語教師のナリタ氏



ハワイ郡議会主催の夕食時における議長と議員の挨拶

◎ 3 日 目

「グリーンウェル農園」

グリーンウェル農園では、コーヒーの種苗育成から焙煎、出荷まで行っており、そのすべてを見学することができた。

コーヒーだけでなくオレンジ、アボカドや胡椒も栽培しており、やはりここでも日系人が活躍してきた歴史を確認することができた。

こういった理解の高い場所を今後計画されるであろう廿日市市民の派遣事業や交流の際の見学プログラムに組み込むことは有用であると感じた。

「コナワエナ高校」

コナワエナ高校は、13 学年制の公立小中高校であり、「ワイルドキャット」をシンボルとしている。

動物をモチーフとすることで学校への帰属意識が醸成されるのではと感じたため、本市の学校にも提言してみたい。



コナワエナ高校出身の
英雄エリソン・オニヅカ氏

学校としての、交換留学制度はなく、コロナ禍前までは沖縄県人会がスポンサーとして久米島高校と交換留学をしていたとのことであった。

学校や行政が主導するのではなく、民間のスポンサー団体が主体となって学校は受け入れるのみの立場のようであった。

「ロイヤル・コナ・リゾート主催によるお別れディナー」

ホテル主催のお別れディナーでは、一般客に混じり、リラックスした雰囲気の中で相手方と最後のコミュニケーションを図った。

ハワイ郡長と松本市長によるダンス、ハワイの夕日を背景に同行の藤井さんによるけん玉パフォーマンスが披露され、本市の魅力をアピールする絶好の機会となった。

◎ 4 日 目

「ウエスト・ハワイ・シビックセンター」

ハワイ郡庁のウエストハワイシビックセンターを訪問した。ハワイ郡の庁舎は、ハワイ島の東側にあるヒロが本庁で、この西側のコナウエストは支所的な役割となっている。

もともとは、すべての公共機能が本施設にあったが、人口増加に伴い、免許センターや裁判所などは近隣に分散したことを聞かされた。

日本では人口減少により公共施設は集約していくことが当たり前という感覚では理解できないことである。

ここでも相手との前提条件を認識しなければ理解できないことを痛感した。



ウエスト・ハワイ郡庁舎内にある
サテライトの議場

おわりに

本訪問で見かける求人広告がいずれも最低時給約 2 千円であることが確認でき、日本との経済環境の違いを実感することができた。

ハワイ郡のホームページに「訪問者が温かい歓迎を受け、地元の文化を深く体験し、相互の尊敬と理解を深める保証します。」とあるとおり、どのレセプションでも手厚い歓迎を受け、改めて「おもてなし」の重要性を再認識した。

相手議会議員の任期は 2 年であり、期数も 4 回までとのことであり、その苦悩について語り合うことで特に親交が深まった。

日本にも多くの友好都市を持つハワイ郡であるが、本市は特別視されていることを実感した訪問であった。

4 視察結果報告

視察終了後、視察訪問者及び議会事務局において報告書（本書）を作成し、次のとおり議員全員協議会（公開）において全議員に報告した。

日 時 令和6年12月19日（木）令和6年12月定例会本会議終了後

場 所 全員協議会室（廿日市市議会棟2階）

内 容 視察実施報告及び質疑応答

出席者 視察訪問者、全議員

本報告書は、令和6年12月20日（金）以降、市議会ホームページで一般に公開する。



議員全員協議会の様子



ハワイ郡議会から贈呈された
記念品（絵画）



新田団長が報告する様子



井上副団長及び梅田団員が
報告する様子